書店関係者にお願いするページ

書籍輸入の過去・現在そして未来

丸善（株）関西支社　水野　絵里奈

近年のコンピュータとインターネットの急激な進歩・浸透により、出版業界にも新たな時代が訪れました。創業1869年以来、弊社の書籍輸入販売における長い歴史の中でも稀に見る時代の変化と言えましょう。これにより弊社の基幹ビジネスである海外書籍の販売の発注方法や物流も大きく変化し、取扱う商品の種類も増加の一途をたどっています。

機械化される以前は、海外書籍の取り寄せは、和書の注文と同様、基本的に紙媒体の手作業で行なわれており、郵送された発注書が海外の出版社や取次店に到着するまで、約1週間かかっていました。次に、FAXの登場は発注スピードを大幅に改善しましたが、納品までの作業は手作業に頼るところが多く、お客様に「納期が短縮した」と認識していただくまでには至っておりませんでした。

1987年、弊社が業界に先駆けて導入した洋書輸入トータルシステムにより、発注から納品までを効率的に管理できるようになりました。そして、近年の提携仕入先とのオンライン化の発展により､更に取り寄せ期間の短縮が可能となりました。その流れを以下に簡単にご紹介しましょう。

お客様のご注文を頂戴しますと、まず弊社システムにて各言語の書籍を羅網した洋書商品情報データベースをもとに、受注登録を行います。この時、弊社の国内在庫があれば直ちに出荷手配されます。その他の注文の約90%以上は、受注入力当日に海外出版社や取次店にオンラインで送信されます。

次に注文を受けた出版社・取次店が出荷した書籍は、米英欧等における弊社集荷基地で混載され、航空貨物便で日本に向け発送されます。その他、十分な商品量が集約できない地域は僅かではありますが、例えば北欧・アジア等では国際郵便小包が用いられることもあります。お客様のご要望に応じて、クーリエ（国際宅配便）でのお取り寄せも可能です。

この間、仕入元より在庫のない商品について、品切・絶版・出版中止等の事故連絡がなされます。重版や返品が見込まれる商品は一時品切として注文を保留されることもあります。また、商品とは別にインボイス（商業送り状兼請求書）が発行されます。以前はエアメールで送付されていたインボイス・事故連絡は、現在共に発注データの送信と同様オンライン化が進み、自動的に弊社システムに取込まれるようになりました。その為、商品到着時に納品書の作成と、早期の事故案内が可能になりました。

一方、送品された貨物は、成田空港に到着し、税関での輸入手続（通関）を行います。学術書は免税対象ですが、輸入価格の事前申告が必要な課税品には、通関に時間がかかることがあります。

通関済みの商品は、バーコードリーダーを使用して弊社物流センターにて検品を行い、同時に誤着や乱丁・落丁等の事故品がないかチェックします。万一、事故品があった場合は、出版社宛ての自動クレームと再発注処理を行います。チェック済の商品は、納品書を添付した後、支店営業所を経て、お客様のご要望に応じて、見積書・請求書等の書類を添付の上、納品されます。

このように、海外図書の物流の多様な各工程においてオンライン化、効率化が進み、欧米主要取引先については、平均で約2週間を切るまでに取り寄せ期間が短縮されました。

扱う種類もまた、インターネットの発達により変化し、書籍という形態以外に様々な媒体の商品が登場するようになりました。外国雑誌が電子ジャーナルやデータベースに変化しつつあることと同様に、e-コンテンツと呼ばれる書籍の電子化が進んでいます。

特にBritannicaを始めとする百科事典や辞書は、いち早く時代の要請に応えて電子化され、利用者の方々に喜ばれております。以前より増加してきましたカセットやCD-ROM、電子ブックだけでなく、このようなインターネットによるｅ-コンテンツは、その利便性だけでなく、図書館における省スペースへのご要望に合致している為、弊社も積極的にご提案しております。

何事にもスピードが要求される現代、商品物流の更なるスピードUPと、お客様のニーズにあった商品のご提案を目指し、弊社は今後も一層の改善を進めて参ります。

みずの　えりな